文学館だより

令和 6年11月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982－68－9511
文責 日髙 第103号

第14回青の國若山牧水短歌大会 結果発表

応募総数4,731首の頂点に輝いた作品です。

青の國大賞 **長崎県長崎市 佐々木 泰三 様**

夏雲に鉄砲百合に蝉声（せんせい）に問われつづける八月なれば

【一般の部自由題 最優秀賞】 宮崎県延岡市 片伯部りつこ様

字は体（たい）を表すと思ふ牧水はまるくやはらか満月のやう

【一般の部題詠「問」 最優秀賞】 千葉県松戸市 堀 卓様

老健の窓の切り取る夕闇に生きた証（あかし）を問うている父

【小学生の部 最優秀賞】 日向市立日知屋東小学校 4年 小野 愛華様

空を見るずっと見ている少しずついやな気持ちがなくなっていく

【中学生の部 最優秀賞】 日向学院中学校 2年 南 瑠衣様

青空はいつの時代も同じ色過去と現在繋ぐ架け橋

【高校生の部 最優秀賞】 宮崎日本大学高等学校 2年 納富 昊雅様

冬の朝病気の父へ手紙かく知らない鳥がただ一人なく

【応募状況】

	一般自由	一般題詠	小学生	中学生	高校生	合 計
第14回 令和6年	669首	637首	929首	945首	1,551首	4,731首
第13回 令和5年	647首	652首	833首	1,443首	1,261首	4,836首

入賞者および入賞作品詳細は当文学館ホームページをご参照ください。

表彰式のお知らせ

日 時 ： 令和6年12月15日（日） 13:30～15:00 （12:30から受付）
場 所 ： 日向市中央公民館
内 容 ： 開会行事
表彰
講評 伊藤一彦先生 一般の部自由題選者
大口玲子先生 一般の部題詠、小・中・高校生の部選者
閉会

入場無料です。気軽に短歌を味わいに来られませんか。

新書入荷しています

伊藤一彦館長の新書『若山牧水の百首』が刊行されました。牧水かるた百首鑑賞『命の砕片』とは異なる歌も多く収められています。

（略）『歌の選出にあたっては、読者にぜひ読んでいただきたい作ということはもちろんであり、有名な歌は洩らさなかった。一方、これまで誰も言及し鑑賞したことのない歌も数多く入れた。私も牧水の歌の鑑賞を何回か執筆している。しかし、初めて取りあげた作もある。今回の執筆で牧水世界をあらためて知った思いがして楽しかった。』（略） 伊藤一彦「解説 未来の人」より

『若山牧水の百首』（ふらんす堂発行） 定価=本体1,700円+税

送料をご負担の上、注文承ります。

企画展「三浦家寄贈資料公開展　繁と敏夫　一受け継がれた二人の絆」再来

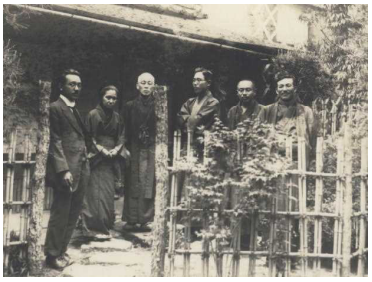
コロナ禍にあり開催延期を繰り返してきた「三浦展」を今年度も開催します。貴重かつ大作の再来で、ワクワクドキドキが詰まっています。どうぞ足をお運びください。

三浦敏夫とは
- 明治 **25** 年生まれ、牧水より **7** 歳年下。
- 愛媛県岩城島（いわぎじま）に生まれる。
- 牧水主宰「創作社」の社友であった。
- 大正 **2** 年、上京途中の牧水が敏夫を訪ね、そこで歌集『みなかみ』の清書を敏夫が手伝ったことをきっかけに次第に親交を深めていく。
- その後、経済的にも牧水を支え、牧水没後は喜志子や若山家とも親交を深める。
- 亡くなる **3** 年前に念願の牧水歌碑を自宅に建立。自らを「島の歌碑守」と称し、牧水を敬愛し続け、生涯を閉じる。

今年5月19日（日）、若山牧水顕彰しまなみ大会に参加。牧水が三浦敏夫を訪ねた岩城島三浦邸に110年を超えて行ってきました。

三浦家寄贈資料

牧水から敏夫宛に送られた手紙を時系列に貼り合わせた「赤裸々集巻一、巻二、巻三」。若山牧水全集未掲載の手紙も中に収められている。牧水直筆の歌 100 首本「百首歌鈔」、喜志子直筆の歌 100 首本「寥々抄」ほか一点ものといわれる貴重な資料の数々が三浦家から寄贈された。その数約 400 点にものぼる。



一番左が三浦敏夫
右から二番目が牧水　　大正 10 年

昭和 39 年当時の三浦敏夫

開催日　11 月 1 日（日）～ 12 月 28 日（土）　※休館　11 月 4 日（月）以外の月曜日

三浦展情報は文学館だより（令和3年4月号、5月号、6月号、7月号、9月号、12月号）に掲載しています。若山牧水ホームページをご覧ください。

牧水折り紙、喜んでもらっています

新作が届きました ⇒

もう5年が経ちました・・・

虎彦さん(延岡市)の包装紙で折ったシャツを来館記念に持ち帰ってもらっています。団体のお客さまには人数分お渡ししています。小学校の先生のネームプレートの裏にこの折り紙が見えた時は嬉しかったですね。

この折り紙を折り続けているのが坪谷出身の藤田知奈美さん。牧水先生、文学館が印象に残ればという思いで一枚一枚丁寧に折ってくださっています。「子どもたちが将来自分の子どもを連れてまた訪れてくれれば嬉しい。」と話す知奈美さん。知奈美さん、ありがとうございます。虎彦さんの包装紙には牧水直筆短歌が印刷されており、裁断後の残りをいつもいただいています。

藤田知奈美さん

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

里の子のかける神輿のきらめきて夕日まばゆき秋祭かな

さとのこの　かけるみこしの　きらめきて　ゆうひまばゆき　あきまつりかな

明治 35 年日州独立新聞十月二十八日号に掲載された十首中の一首。歌集未収録歌。この歌は旧制延岡中学校 4 年生の時に詠まれ、雅号牧水を名乗る以前の歌である。当時下宿していた延岡の子どもたちを詠んだ歌かと思うが、地元の祭りが近づくこの時期になると思い出す一首である。今年の坪谷神社大祭は 11 月 16 ～ 17 日に行われる。